

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	日本近世・近現代史 (Japanese Early Modern and Modern History) 131025-14000					担当教員	沢目 健介 (サワメ ケンスケ)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
日本の近世・近現代の歴史を考える。近世から現代に至る日本の歴史は世界史の動向と深く関わっている。地政学的関連から、中国、朝鮮など近隣諸国との関係については特に注意深い考察が必要である。下記の授業内容は項目として挙げておくものであり、学生の質問や感想に応じて次回のテーマについては臨機応変に対応することがある。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門知識・技術力を活用する能力／情報収集・分析力									
③ 授業の進め方・指示事項									
授業時に次回のテーマを提起する。次回テーマに関連するテキストを読み、メモを取ることが望ましい。教科番を読ませる可能性もあるため、音読し難解な語句にはルビをつけておくことが必要である。 (1時間以上) 授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておくこと(1時間以上)。ノート提出を求めることがある。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「世界近現代史」も履修することが望まれる。									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 日本人学生と留学生と一緒に日本史を学ぶ機会を考慮し、相互の共通の理解を深める。 (ii) 事実を確認し、冷静に歴史的判断ができる能力を身につけることを目的とする。 (iii) テキストや史料を読む能力を身につけ、歴史的に考える習慣をつけることを到達目標とする。世界史の動向の根源を問う態度を養う。そのために、史料の筆写を課す。									
⑥ テキスト(教科書)									
鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』(山川出版社、2013年)									
⑦ 参考図書・指定図書									
適宜授業で知らせる。毎回レジュメ、史料を配布する予定である。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%		15%			15%		100%
(i)	40%		5%			5%		50%
(ii)	15%		5%			5%		25%
(iii)	15%		5%			5%		25%
フィードバックの方法	毎回授業課題用紙の提出を求め、授業内容理解を確認する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
知識定着・確認型 AL を採用する。毎回提出の授業課題用紙の記述を参考にして、次回授業で前回授業内容の補足・必要事項の確認を行う。

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	日本史を見る視点 政治史的に見た日本史の特質	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。 関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後は授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく
2	織豊政権の時代	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。 関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後は授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく
3	江戸時代	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。 関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後は授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく
4	開国	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。 関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後は授業後はその日

			のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	
5	明治維新	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
6	自由民権	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
7	大日本帝国憲法体制	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
8	日清戦争	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
9	日露戦争	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
10	大正政変と大正デモクラシー	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成し	120分

			ておく	
11	なぜ日本は戦争へ	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
12	15年戦争の日本	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
13	日本国憲法体制と冷戦体制に本	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
14	高度経済成長とその終焉	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分
15	冷戦体制構造終結と日本	教科書・筆記用具	授業時に次回のテーマを提起する。関連したところを音読し考えてメモをとる。授業後はその日のうちに、知識と理解を深めるために自分なりの工夫を施しノートを作成しておく	120分

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL を採用する。毎回提出の授業課題用紙の記述を参考にして、次回授業で前回授業内容の補足・必要事項の確認を行う。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性